

ずいそう

## 九頭竜川で世界大会を！

佐野 洋介



私は、福井市で水門関係の会社を経営する傍ら、フリースタイルカヤックをとおして、九頭竜川という地域資源を活かし、スポーツでまちを盛り上げる活動に取り組んでいます。その活動をご紹介します。

### 1. フリースタイルカヤックとの出会い

フリースタイルカヤックは、川の激流部にできた波や落ち込みに留まりながら、カヤックを縦横斜めに回転させたり宙返りしたりする、アクロバティックな技を競うスポーツです。

大会は、DJが音楽を流す中で行われ、MCがトークを織り交ぜて雰囲気を持ち上げます。カッコいい技が決まると、選手と観客が一体になるエキサイティングな瞬間が生まれます。

私がこのスポーツを知ったのは、松永和也という世界大会出場経験のあるカヤッカーが私の会社に入社したことがきっかけでした。ウェブで観てみると、そこにはスノボやスキーのフリースタイルと同様の、“尖ったスポーツ”の魅力がありました。これは面白い！

### 2. 九頭竜川で世界大会？

あるときその松永が「福井には世界大会ができるポテンシャルを持った場所がある」と言いました。興味をもった私は、彼に現地を案内してもらいました。

そこは、水力発電所の放流水が九頭竜川に合流する場所でした（写真—2）。確かに激流が白泡を立て、波や落ち込みを作ってはいましたが「こんなところで世界大会できるの？」というのが正直なところでした。

しかし、国内外での競技経験を持つ彼の目には、他に無い四つの魅力が見えていました。①天然河川と異なり、放流水は通年で水量が豊富 ②都市部から近い ③観客席設置スペースがある ④欧米人が憧れる「禅」の大本山、永平寺を擁する地域にある。

そこまで言われると少し興味も湧き、過去の世界大会の映像を観てみました。驚くことにそれは、世界大会という言葉から想像していたものよりも小規模なものでした。フリースタイルカヤックは、ニッチスポー



写真—1 前方宙返り「ループ」の瞬間



写真—2 九頭竜川と放水路の合流地点

ツなのです。いつしか私は、世界大会ができるんじゃないか？世界からカヤッカーが集まるなんて、ワクワクする！是非実現させたい！と盛り上がってしまいました。

### 3. それは SNS のつぶやきから始まった

「こんな面白い話、黙ってはいられない」

私は、SNSで「世界大会ができるところが福井にあるらしい」とつぶやいてみました。

真っ先に興味を示してくださったのが、国交省の中

村圭吾さん（当時福井河川国道事務所長）でした。中村さんとは、JCMA 関西支部主催の意見交換会で面識を得、SNSで「友達」になっていたのです。中村さんは早速、関係諸団体に話を伝え、河川関係のキーマンを紹介してくださいました。

皆さんとも意気投合し、まずはカヤックの面白みを発信するところから始めようという話になりました。その構想を永平寺町の河合永充町長にプレゼンしたところ、快諾をいただくことができ「九頭竜川かわとまち協議会」を設立し、河合町長には会長にご就任いただくことになりました。話はトントン拍子に進みました。

一方で、問題もありました。その場所は、可能性を秘めた場所ではありましたが、河床の状況が不明で、競技の安全性の面で不安があったのです。世界大会誘致のためには、この問題を解決する必要がありました。

#### 4. 国内無二の競技場「ナミノバ」誕生！

問題解決には、一旦河床を露出させて均し、波や落ち込みが生じるよう、河床にコンクリートブロックを設置する必要がありました。

この話を聞いて、ブロックのメーカーさんがブロックを無償提供してください、ブロックの配置計画に必要な水理実験は、福井高専の先生が協力してくださいることになりました。

資金集めにはクラウドファンディングを活用しました。良い意味で予想は裏切られ、目標をはるかに上回る資金が集まりました。

準備は整い、福井県、関西電力さん、漁協さんの絶大なるご協力をいただき、民間資金による一級河川の改修という、他に例を見ない工事に着手しました。

工事は、発電所の年点検で放水が止まる真冬の4日

間に行わなければなりません。ここでも、この取り組みに賛同してくださった地元土木業者さんが、雪の中、不眠不休で工事に当たってくださいました（写真—3）。

そうして遂に、世界大会に相応しい競技場が完成しました。私たちは、その競技場に「ナミノバ」と命名しました（写真—4）。

#### 5. 世界大会誘致に向けて

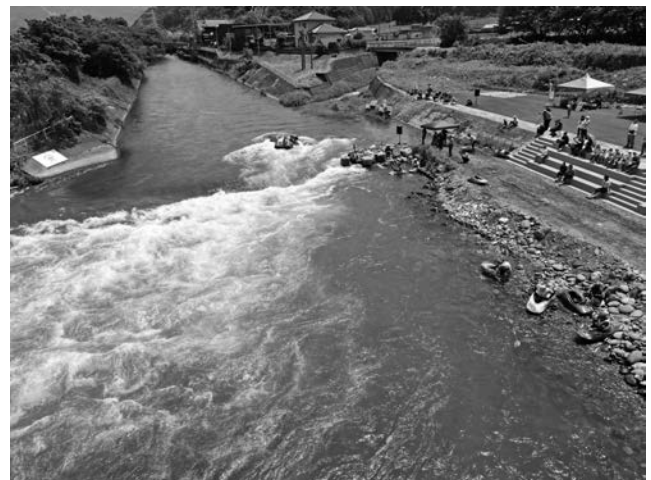
世界大会常連国の中でホスト国になったことが無いのは、日本だけです。理由はただ一つ。世界大会に適した競技場が無いということ。

今般「ナミノバ」が完成し、日本カヌー連盟もこれに注目し、一気に日本誘致の機運が高まってきました。杉本達治知事も大いに乗り気で、心強い限りです。

大会開催の実績を付けるために、これまで二度の国内大会「禅カップ」を開催し、多くの地元の方々に観戦いただきました。また、日本カヌー連盟の世界選手権



写真—3 深夜の突貫工事



写真—4 ナミノバ



写真—5 禅カップ記念撮影

派遣選手選考会である「ジャパンカップ」を令和7年5月にナミノバで開催するところまで漕ぎつけました。

## 6. おわりに

世界大会実現までには、資金の確保や選手の宿泊施設の確保など、様々な課題に直面するでしょう。

しかしながら、これまでも有り難いことに「この方がいなかったら、この話は前に進んでいない」と思えるような方が次々と目の前に現れて一緒に活動してくださっています。ですから…きっと何とかなるでしょう。

ここまで来たら、乗りかかった舟ならぬ乗りかかっ

たカヤック。九頭竜川でお仕事をいただいていた恩返しの気持ちで、世界大会で地域を盛り上げていきたいと思えます。



図一 九頭竜川かわとまち協議会 QR コード

—さの ようすけ 福井鐵工(株) 代表取締役社長—

